

CAMPUS COMMUNICATION

CELERY

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌【セロリ】

2013

1

January

No.86



【特集1】

第46回 霜月祭

【特集2】

国際交流

海外留学スカラーシップ制度

～留学体験レポート～

チャレンジする ナカムラ生



「ライジング福岡 2012-2013シーズン応援企画」総括責任者

園田 歩実さん

中村学園大学 流通科学部3年生

白水 美咲さん

中村学園大学 流通科学部3年生

プロバスケットボールチームの 応援を通じて、マーケティングの 重要性を肌で感じた。

ゼミの仲間とともに、
日本プロバスケットボールリーグ(bjリーグ)に所属する
チーム「ライジング福岡」を応援する企画に取り組んだ
園田さんと白水さん。活動を通して多くの学びを得ています。

日を追うごとに高まってきた、
ライジング福岡を応援したいという想い

地元のプロバスケットボールチームを、流通科学部の
特長を活かして、私たちなりに応援したい。そう思った
のは、私たちのゼミにライジング福岡の広報・営業企
画担当の方が講演にいられたことがきっかけです。
チームのマーケティング戦略のお話はとても興味深く、
ゼミ生みんながチームの活動に魅力を感じました。
また、学生ならではのアイデアがあれば歓迎したいと
いうお考えもあり、ライジング福岡の応援企画に挑戦
することになりました。

それから、チームのホーム開幕戦に焦点を合わせ
て、私たち二人が総括責任者となり、ゼミ内で企画を
練りました。行き着いた答えは、試合会場で中村学園

大学のブースを出して、来場者を対象にアンケートを
実施させていたということ。私たちが日頃学ん
でいるマーケティングを実践できるというメリットが
あり、またアンケートの結果は今後のチームの集客の
ために役立てていただけると考えました。

私たちが学んでいるスポーツと健康を主なテーマと
している音成ゼミと、心理学や、それに関わるアン
ケート作成などをテーマに学んでいる柳澤ゼミの合
同による、31名からなるプロジェクトチームを組みま
した。最初はチームの存在さえ知らない学生もいまし
ましたが、企画を練るにつれ、徐々に地域密着型のプロチー
ムとして頑張っているライジング福岡を盛り上げようと
いう気持ちがあがり、どんどん強くなっていきました。

CONTENTS

01

チャレンジするナカムラ生
ライジング福岡
2012-2013シーズン応援企画

03

【特集1】
第46回・霜月祭レポート

05

【特集2】
国際交流
海外留学スカラシップ制度
留学体験レポート

07

活躍する卒業生

応援企画を実施したこと感じた マーケティングの醍醐味

応援企画を実施するホーム開幕戦は、多くの集客が見込まれました。アンケート調査項目は、試合があることを何で知ったか、これまでの観戦回数、チケットの金額、試合の時間帯についてなど、13の質問を用意しました。アンケート調査の実施のみでは回答してもらえない懸念があったので、チームの協力を得て、アンケートに答えてくださった方には選手のサイン入りミニバスケットボールや、中村学園大学のグッズをその場でプレゼントする抽選会企画も行うことにしました。

試合当日、中村学園大学のブースには多くの方が集まりました。結果、200名以上の方々にアンケートに答えていただくことができました。ゼミ生全員が力を合わせて活動し、またライジング福岡が試合に勝ったこともあり、試合後はみんなに達成感がありました。こともあり、試合後はみんなに達成感がありました。後日、ゼミでアンケート調査結果を分析してまとめ上げ、チームに提出。チームの方からは「みなさん、よく頑張ってくれました。いただいたデータは、今後の集客活動の参考に変えたい」という感謝の言葉をいただきました。地元チームを根拠からサポートするため、今後も応援企画は継続していきたいと考えています。

ライジング福岡応援企画の活動を通じて、今まで学んできたマーケティングの重要性を肌で感じられ、マーケティングに対する考え方や視野も広がりました。今回の応援企画で得たものは大きかったと思います。間もなく私たちは4年生になりますが、今回の取り組みで学んだことをよく考え、行動することの大切さを念頭に置いて、これからの就職活動も頑張ります。

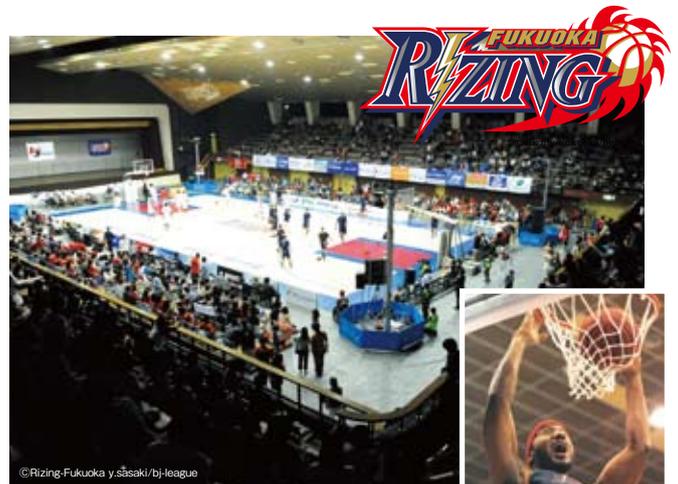
《bjリーグで奮闘する「ライジング福岡」を応援!!》



試合当日集合した応援企画のプロジェクトスタッフ。開場を間近に控え、徐々に緊張感が高まる。



中村学園大学のブースにて、プレゼント抽選会を兼ねた来場者アンケートを実施。予想以上に賑わった。



九電記念体育館で行われたホーム開幕戦。ライジング福岡は4月末まで開催されるbjリーグにおいて、現在上位の順位にいる。



CELERY

中村学園大学・中村学園大学短期大学部
広報誌【セロリ】

2013.1 January

No.86



11

・学内外のイベント
・教員の出版物 他

EVENT and NEWS

10

平成25年度
入試結果・お知らせ

09

クラブ&サークル
女子ラクロス部

08

わがゼミ案内
短期大学部 幼児保育学科
園入 智仁ゼミ



【特集1】

学生のパワー全開!!

第46回

霜月祭

SHIMOTSUKI FESTIVAL

11.1
(thu)

2
(fri)

3
(sat)

一年で、キャンパスが最も熱気に包まれる「霜月祭」。

学園祭実行委員会の努力の甲斐あって、今年も大いに盛り上がりました。

各種イベントはどれも大成功。学生のみならず一般の方々にも楽しんでいただきました。



Miss Campus Contest

■第30回 ミスキャンパスコンテスト

自薦他薦で選ばれた10名の学生が、美と個性を競うミスキャンパスコンテスト。霜月祭の中で最も歴史あるイベントで、今年も記念すべき第30回を迎えました。一番盛り上がったのは最終審査のウエディングドレス審査。ドレス姿の美女が登場する度に、会場からは大きな歓声が上がりました。

今年のミスキャンパスに輝いたのは野田奈月子さん（人間発達学部3年生）。選ばれた瞬間は思わず涙。「信じられない…。でも、とても嬉しいです」と戸惑いながらも最後はとびっきりの笑顔を見せてくれました。



◀ 美女たちの登場で、会場の体育館は華やかな雰囲気になりました



▲ ミスキャンパスに選ばれた野田奈月子さん



Gourmet【模擬店紹介】

グラウンドにはさまざまな味が楽しめる模擬店がところ狭しと出店され、どのお店も賑わっていました。



¥500

▲カレーに良く合う甘酒ゼリー付き

★中村ハル風薬膳カレー
薬膳・食育ボランティア同好会による屋台。「中村伝統のカレーをアレンジして作りました。貴重なカレーを一人でも多くの人に味わってもらいたい」と代表の篠原えりさん(栄養科学部3年生)。



¥350

▲日本人向けにちょっと辛さを抑えたとのこと

★麻婆豆腐丼
本場中国の味を提供しているのは留学生と国際交流活動に参加した日本人学生有志のメンバー。「昨年は餃子でしたが今年は麻婆豆腐。毎年本格的な中華料理を作っています」と盧亜静さん(流通科学部4年生)。



¥200 (3本)

▲2時間半でなんと約130人分が売れている!!

★手羽先の唐揚げ
学友自治会と大学同窓会が協力して出店しているお店。自治会長の川上彩乃さん(流通科学部3年生)は、「先生方からはビールが欲しくなる美味しさだねと言われたり、とても好評です」と語ってくれました。



¥200

▲吹奏楽部の良さは「やる時はやるどころ!」

★焼きそば
吹奏楽部が販売しているのは焼きそば。「先輩から先輩にレシピが受け継がれている味」と語る小西舞さん(幼児保育学科2年生)。「作るのが間に合わないほど売れています。嬉しい悲鳴ですね」。

Dance Contest【ダンスコンテスト】



▲勝利を目指し、各チームが日ごろの練習の成果を発揮!!



▲プロ顔負けのステージは迫力満点!!

過去最高の12チームがエントリー。スポットライトを浴びて激しく踊る学生たちの表情は真剣そのもの。コンテストが行われた2時間、強烈なビートと観客の歓声がこだまする体育館は熱気に包まれていました。

Singing contest【のど自慢大会】



▲天気にも恵まれ、野外ステージはひとときコンサート会場に



▲「昨年3位だったので、今年はリベンジできました」と優勝した白杵和美さん

野外ステージで行われた毎年恒例ののど自慢大会。参加した6名は、持ち歌を自信たっぷり熱唱していました。優勝したのは、小柳ゆきの「あなたのキスを数えましよう」を歌った白杵和美さん(教育学部2年生)でした。

Exhibition【作品展示】



体育館では、書道部、華道部、美術同好会の作品展示が行われ、多くの方が学生の力作に見入っていました。

Tea ceremony【お茶会】



裏千家茶道部によるお茶会。一般の方、他大学の茶道部の方など、多くのお客さまをおもてなしていました。

Mini concert【ミニコンサート】



音楽系サークルを中心に、ロック、フォークなど、あらゆるジャンルの音楽で、観客を楽しませていました。

団体表彰

理事長賞(フードバザー部門)

- 第1位/留学生会(麻婆豆腐丼)
- 第2位/大学同窓会with学友自治会執行部(手羽先の唐揚げ)
- 第3位/内田ゼミ(かしわおにぎり)

学長賞(展示・ステージ部門)

- [中村ミュージアム]
- 第1位/井上ゼミ 第2位/古賀(信)ゼミ
- [野外ステージ]
- 第1位/和太鼓部 第2位/パトン同好会
- [学友会館・第2体育館]
- 第1位/演劇部 第2位/表千家茶会

国際交流

INTERNATIONAL EXCHANGE

帰国報告



韓国

【流通科学部4年生】
橋本 久未子さん

◎留学先/韓国(釜山大学校)
◎期間/2011年9月~2012年8月

自分でも驚くほど
韓国語が上達しました

韓流ブームが来る前の幼い頃から、隣国である韓国に興味を持っていました。中村学園大学に入学し、留学したいと思った時は、迷わず韓国への留学を選択。流通科学部と貿易国際学部が学部間協定を結んでいる釜山大学校へ一年間留学することになりました。留学までは、韓国はもちろん海外旅行の経験もなく不安でしたが、留学二カ月前に韓国語特訓講座を

帰国報告



ニュージーランド

【流通科学部4年生】
矢野 由希子さん

◎留学先/ニュージーランド(クラウン語学学校)
◎期間/2011年9月~2012年8月

人前でも物怖じしない
度胸が身に付きました

「学生時代に英語をマスターしたい」そう思った理由は、外資系アパレルショップでアルバイトをしていた頃、社員である外国人の方々ともっと英語で自然に会話をしたいと感じたからです。そんな折、流通科学部の海外留学スカラシップ制度の存在を知り、留学することを決意しました。留学先はニュージーランドの首都、オークランドにあ

流通科学部
「海外留学スカラシップ制度」
～留学体験レポート～

中村から世界へ広がる、学びのステージ。

グローバルに活躍する人材育成に取り組んでいる本学には二つの留学制度があります。一つは、ホームステイしながら二週間程度、アメリカをはじめ英語圏4カ国の教育機関で勉強し、単位を取得できる「海外研修制度」。もう一つは、流通科学部在学学生を対象に、海外の協定大学等へ半年または一年間留学する「海外留学スカラシップ制度」です。この海外留学スカラシップ制度は、留学期間も在学期間とみなし、留学先で修得した単位についても、本学の条件を満たせば単位認定され、4年間で卒業することが可能です。また、経費については、留学先の授業料及び往復の渡航費は全額本学が負担し、さらに滞在補助として年額30万円や海外保険料の半額を支給されるなど、金銭面でも強力なサポートがある制度です。今回は、「海外留学スカラシップ制度」で各国に留学した流通科学部の3名による留学体験レポートをお届けします。

近況報告(留学中)



中国

【流通科学部2年生】
渡邊 優希さん

◎留学先/中国(中国人民大学)
◎期間/2012年9月~2013年8月

自分を見つめ直す
いい機会になっています

中国に留学しようと思ったきっかけは、国際化が急激に進む日本企業の現状から外国語を修得する必要があると感じたからです。このような考えを持ち始めた時に、アジアの経済や中国語の授業で徐先生や謝先生に出会い、中国に留学したいという思いが強まりました。中国は世界的に見て経済発展の著

受講して、マンツーマンで先生に教わったことで、少し不安は解消できました。とはいっても、韓国語では挨拶程度の必要最小限のことしか話せなかったため、実際に留学してから最初の一月は大変でした。初めての海外暮らしに加え、初めての一人暮らしで、ちよつとホームシックにもなりました。

通っていたのは釜山大学校付属の語学堂です。授業は午前9時から午後1時までで、授業後は自ら作った日韓中比較研究サークルの活動を行ったり、日本で行っていたダンスを続けるべく、ダンススクールに通ったりしていました。他国の友人ができたこともあって、月日が経つにつれて韓国という国にも馴染み、最初はおぼつかなかった韓国語も、自分でも驚くほど上達していきました。留学して半年くらい経つと、かなり話せるようになり、留学が終わる頃には日常会話は問題無く、韓国語でプレゼンテーションしたり、論文を書いたりできるまでになりました。

また、一週間にわたってインターンシップも体験することができ、とても有意義な留学体験となりました。あつという間の一年間でしたが、一人暮らしをしたことで両親がいることのありがたみを改めて感じましたし、得たものは大きかったと思います。将来は韓国で働くことも視野に入れて、語学力を活かせる仕事に就きたいと考えています。



春先に撮った写真。いろいろな国の人と知り合いになったのも財産です。

インターンシップ先にて。留学生にもかかわらず、あたたかく迎えてくれました。



時々通ったお店。韓国人のとてもフレンドリーなところが好きになりました。

るクラウン語学学校です。授業は午前9時から午後3時半までで、毎日集中して学びました。英語力がアップしてきたと感じたのは留学から二、三カ月後で、半年程経った頃には通常の英会話には不自由しないくらいに上達しました。留学当初はホームステイ先のホストファミリーの質問にも「イエス」「ノー」でしか答えられなかったのですが、この頃からスムーズな会話ができるようになりました。日を追うごとに英語が話せることを楽しいと感じるようになり、学習意欲も向上。最後の二カ月間は、英語を母国語としない人向けの英語教授法であるTESOLの資格取得に挑戦し、頑張った甲斐あって無事に資格を取得できました。

帰国して今思うことは、海外留学スカラシップ制度はすばらしいということ。留学による留年もなく、経済的負担も軽減できるこの制度がなかったら、私は留学せず、また英語もマスターできなかったことでしょう。留学中は、他国の学生からかなり羨ましく思われました。

一年間の海外生活を経て変わった自分があります。留学前に比べ、人前でも物怖じしない度胸が身に付き、伝えるべきことははっきり話せるようになりました。後輩の皆さんも、自分自身を成長させたいと考えている方は、ぜひ海外留学に挑戦して欲しいと思います。



世界各地から集まってきた語学学校のクラスメイト。場所柄、サウスアメリカの国から来た学生も多かったです。

ハロウィーンパーティ。いろいろなイベントにも参加し、楽しい毎日でした。



仲間と小旅行。今でもフェイスブックなどを通じて交流しています。

しい国であり、今の中国を体感したいと感じたことも留学理由の一つです。

中国に来て数カ月が経ちましたが、こちらに来た時は全くと言っていい程聞き取れなかった中国語も、徐々に聞き取れるようになりました。授業は全て中国語で行われ、同じクラスにはさまざまな国の学生がいます。また、中国人民大学には日本語学科の学生がいて、人民大学の日本人会という会が交流の機会をつくってくださるため、日本語学科の学生と相互学習を行うことが可能です。私も、相互学習の相手を見つけて勉強しています。

住まいは留学生寮で、ルームメイトの韓国人と快適に過ごしています。同じ寮に住んでいる人やクラスメイトなど、たくさんの友人ができました。多くの方との交流を通して、私はまだまだ積極性に欠けており、相手に自分の考え方を伝えることが苦手など実感していますが、この留学は自分を見つめ直す良い機会になっていると思うので、自分の考え方や行動を少しずつでも変えていけたらと思っています。

今は残り約六カ月の留学期間で、さらに中国語を上達させたいという思いで一杯です。将来的には中国語を活かし、旅行関係の仕事に就きたいと考えています。また、日本に帰ってからは専攻であるマーケティングをさらに勉強し、就職活動に臨みたいと思います。



各国の留学生たちとの食事風景。友人をつくる機会がたくさんあります。



ルームメイトの韓国人と。とてもいい人で、仲良くしています。

中国人民大学の“国際文化祭”。他の日本人留学生とともに、着物で参加しました。



活躍する卒業生

Graduate of Nakamura



社会福祉法人飛鳥会 こくぶ保育園

野尻 沙也加さん

平成19年度 中村学園大学短期大学部 食物栄養学科 卒業

園児たちの「美味しい」という言葉に 元気をもらって、頑張っています。

現在、私は福岡県太宰府市にある「こくぶ保育園」で栄養士として働いています。0歳から6歳までの約140名の園児の給食やおやつを作るのが主な業務で、その他にも園児にお箸の持ち方を指導したり、園児と一緒に菜園づくりをしたりするなど、積極的に食育活動にも取り組んでいます。

園児たちはすごく正直で、給食を食べた感想を「酸っぱい」「辛い」など、私にストレートに伝えてくれます。「今日の給食、美味しかった。全部食べたよ」と目を輝かせながら給食室に来る園児たちも多く、そんな園児たちの言葉に元気をもらいながら、もっと美味しい給食を作ろうとモチベーションを高めています。また、保護者の方々が「子どもがここに通うようになってから好き嫌いが無くなり

ました」「給食を楽しみに保育園に通っているようです」など、嬉しいお声を掛けてくださることもあり、そのような時はこの仕事のやりがいを感じます。

保育園の栄養士になって5年になり、現在私は、この保育園にいる3名の栄養士のリーダーという立場になりました。試行錯誤の毎日ですが、園児たちに楽しみながら食べることの大切さを伝えることが重要だと考えています。栄養バランスに優れた食事を提供することはもちろんですが、園児の食事は楽しい時間、という思考を育むことも私たちの重要な役割です。食を通して身体が作られていく大事な乳幼児期の子どものために、関わることでも嬉しく思う反面、私たち栄養士が担っているものは大きいと感じています。

調理技術の基本は短大時代の2年間ですっかり身に付けました。私が学んだ食物栄養学科は調理実習が週に2、3回あり、実践的な授業が多かったことが良かったと思います。また調理実習はいくつかの班に分かれて行われるのですが、同じ班の学生とコミュニケーションを取りながら力を合わせて調理を行った経験が、現在の給食室でのチームワークにも役立っていると感じています。また、先生方は親身になって、いろいろな相談に乗ってくださいました。実は、今でも現場で分からないことがあった際にはアドバイスをいただいております。心から感謝しています。

栄養士を目指す後輩の皆さんに伝えたいことは、学生の間にはっきり多くのことを吸収してもらいたいということ。中村での学びの一つひとつが仕事の現場で活かされる内容ばかりです。ぜひ、学ぶことを好きになって欲しいです。私もさらに勉強を続け、園児たちから「美味しかったよ」という言葉をたくさんもらえるように頑張りたいと思っています。



食育活動にも積極的な「こくぶ保育園」の栄養士3名は全員が中村の卒業生。チームワーク良く、園児約140名分の給食やおやつを作っています。リーダーとしての後輩への適切なアドバイスも野尻さんの大切な役割です。

上司からのメッセージ



社会福祉法人飛鳥会
こくぶ保育園 園長

山下 敏明 様

● 野尻さんについて

非常に明るく、また後輩に対する面倒見も良いと感じています。保護者の方々からの評判も良く、彼女を頼って給食室を訪れる方もいらっしゃるほどです。また、栄養士は保育士とのコミュニケーションも求められますが、その点も密に行ってくれています。これからも、園児たちのため、保育園のために頑張ってくれるものと期待しています。

● 就職活動全般について

面接の際に重要視しているポイントは明るさや元気さです。まだまだ技術が未熟なのは当然ですが、質問にハキハキ答えられるかなどをチェックします。それと情熱があるか無いか。栄養士や保育士として、料理が好き、あるいは子どもが好きというのは当たり前です。せっかく大学時代にハードな勉強をしてライセンスを取得したので、この道でどうしても頑張りたいという意欲をアピールして欲しいです。

気軽に話しかけられる
お兄さんみたいな先生です！



短期大学部 幼児保育学科 圓入ゼミ (2年生10名)



子どもの福祉と教育の間にある さまざまな問題について考察する。

子どもの福祉と教育との関係についての造詣を深め、将来に役立てていく、それが圓入ゼミのテーマ。ゼミ生は問題提起された事例に対して、能動的に考える力を養っています。

今春卒業するゼミ生全員が保育士、幼稚園教諭を目指している圓入ゼミ。テーマである「子どもの福祉と教育との関係」について学びを深めています。取り上げる題材は、児童虐待、赤ちゃんポスト、子ども手当、イクメンなど多岐にわたり、ビデオ教材を見たり書籍を読んだりした後、題材についてゼミ生それぞれが自分の考えを明確にし、全員で議論を交わしています。

「1年生の時は児童虐待、障がい児、非行、里親などについて広く一般的な学習をしますが、2年生では、例えば児童虐待と言っても実情はどうかなど、より深く掘り下げた授業にしています。それは、ゼミ生が将来、仕事場で実際に虐待されている子どもを前にした時に何をすべきなのか、頭で考えて行動できるようになって欲しいからです」と語る圓入先生。子どもと楽しく遊ぶ、あるいは子どもの発達を見守ることについてさまざまな授業で学んでいる学生にとって、教育

(圓入先生の口癖)
でしようっ？

准教授 圓入智仁 先生



者として必要な知識を修得できる内容になっていきます。

児童相談所で働いていた経験がある圓入先生。自らの体験を交えたりリアリティに満ちた授業のため、ゼミ生たちはデータだけではなかなか掴むことができない、先生の声を聞くことができます。「児童相談所に寄せられる児童虐待相談件数は、全国で年間5万件を超えています。しかし、実際にはそんなに数字は実感できないものです。ゼミ生たちには数字を聞いて鵜呑みにするのではなく、実際はどうなのか、自分の頭で考えるようにして欲しいと思っています」。

「先生は現場を知っていて、事例を交えて話してくださるので、とても現実味があつて分かりやすいです」「問題意識を持つことの大切さを学びました」とゼミ生たち。このゼミで学ぶことによって自分でも考える力や発言力が養われたということでした。圓入先生の人柄について聞いてみると「見た目はカタイ感じですけど、とっても気さくです」「親身になって耳を傾けてくださるので、質問も気軽にできます」と先生を慕う言葉が聞かれます。

圓入先生は、「保育士や幼稚園教諭は、最終的には子どもたちの命を守るのが仕事です。ゼミ生たちはこれから保育の現場で困難な問題と対峙することもあると思いますが、万が一の時にも動じることのない立派な保育者になって欲しいですね」。教え子たちを見守るその表情には、笑顔と優しさが溢れていました。

クラブ & サークル

CLUB & CIRCLE



女子ラクロス部

◎部員数/24名
(選手21名・マネージャー3名)

◎部長/原 佑貴代
(栄養科学部3年生)



練習場は整備が行き届いた中村学園田島グラウンド。「きれいな人工芝で練習できるのは嬉しいです。この練習場だと言いつができません(笑)」とは部員のコメント。



「明るく元気」がモットーという女子ラクロス部。「もっと強くパスを出して!」「ナイスショット!」、厳しい練習中でも元気な声が飛び交っています。



厳しい練習を乗り越えた先に 全国の舞台が待っている!!

田島グラウンドで練習に励む女子ラクロス部。
部員一人ひとりが意識を高く持って、全体のレベルアップを図っています。

「試合の時はスカートをはいていて見た目はかわいいですが、ラクロスはかなりのハードなスポーツです。一試合で相当な距離を走りますよ」。そう語るのはキャプテンを務める原佑貴代さん。部員は現在24名で、月・水・金・土曜日の週4日、夕方の5時から約3時間練習しています。コーチのもとで、毎回、密度の濃い厳しい練習が行われていますが、より上手く、より強くなるために部員全員が努力を惜しまず頑張っています。

部員は中村に入学してラクロスを始めた者ばかり。「このクラブには大学から新しいスポーツに挑戦したいという、チャレンジ精神が旺盛な学生が集まっています。中には小・中・高校の時には全く運動部に所属していなかった学生もいます。みんなルールも知らない未経験者からのスタートですから、上級生が下級生の足りない部分を補いながら頑張っています」。

女子ラクロス部が誕生したのは、あまりラクロスという競技名が一般の人に知

られていない平成4年です。創部から10年程度の部が多い九州の他大学に比べ、創部から20年以上の歴史があるのは九州では少ないとのこと。そんな伝統ある女子ラクロス部が戦っているのは九州学生リーグ。毎年8月から11月にかけて11校でリーグ戦を戦っています。全国大会に出場できるのは優勝した1校のみ。本学女子ラクロス部の昨年の成績は4位でした。

「ラクロスは全員でパスをつなぎながらゴールを目指すスポーツなので、普段の練習からコンビネーションを磨いていくことが大切です。部員個人の能力は高いので、スムーズな連携がさらに高まれば、目標の九州チャンピオンになるのも夢ではないと思っています。全国を目指し、これからも心をつにして頑張ります」。



「ラクロスは多くの人がやっていないのが魅力。ちょっと優越感があります」と語る原佑貴代キャプテン。

平成25年度 入試結果

競争率は、受験者数 / 合格者数 (小数点第3位以下を四捨五入)

中村学園大学大学院

研究科	専攻	課程	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
栄養科学研究科	栄養科学専攻	博士前期課程	推薦	6	1	1	1	1.00
			一般(1次)		7	6	4	1.50
		博士後期課程	第1次	3	1	1	1	1.00
流通科学研究科	流通科学専攻	修士課程	推薦	10	8	8	6	1.33
			一般(1次)		3	3	3	1.00
			社会人(1次)		0	0	0	0
			推薦		0	0	0	0
人間発達学研究科	人間発達学専攻	修士課程	推薦	5	0	0	0	0
			一般(1次)		0	0	0	0
			社会人(1次)		2	2	2	1.00

中村学園大学 (推薦入学選考)

学部・学科	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
栄養科学部 栄養科学科	公募	50	140	140	57	2.46
	併設校	20以内	20	20	19	1.05
	指定校	20	28	28	28	1.00
教育学部 児童幼児教育学科	公募	80	185	185	98	1.89
	併設校	15以内	15	15	15	1.00
流通科学部 流通科学科	公募	25	29	29	27	1.07
	併設校	40以内	25	25	25	1.00
	指定校	45	69	69	69	1.00

中村学園大学短期大学部 (推薦入学選考)

学 科	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
食物栄養学科	公募	37	93	93	61	1.52
	併設校	10以内	10	10	10	1.00
	指定校	63	62	62	62	1.00
キャリア 開発学科	公募	10	16	16	16	1.00
	併設校	15以内	10	10	10	1.00
	指定校	110	109	109	109	1.00
幼児保育学科	自己推薦	5	5	5	5	1.00
	公募	75	117	117	94	1.24
	併設校	15以内	15	15	15	1.00
	指定校	60	70	70	70	1.00

入学試験のお知らせ

中村学園大学大学院 栄養科学研究科 (博士前期課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成25年 2月16日(土)	6名	平成25年1月21日(月) ~ 2月1日(金)
外国人留学生特別選考			平成25年1月15日(火) ~ 2月1日(金)

募集人員数：推薦・第1次試験入学選考含む

中村学園大学大学院 栄養科学研究科 (博士後期課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成25年 2月16日(土)	3名	平成25年1月21日(月) ~ 2月1日(金)

募集人員数：第1次試験入学選考含む

中村学園大学大学院 流通科学研究科 (修士課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成25年 2月16日(土)	10名	平成25年1月21日(月) ~ 2月1日(金)
第2次社会人特別入学選考			平成25年1月15日(火) ~ 2月1日(金)
外国人留学生特別選考			平成25年1月15日(火) ~ 2月1日(金)

募集人員数：推薦・第1次試験・第1次社会人特別入学選考含む

中村学園大学大学院 人間発達学研究科 (修士課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成25年 2月16日(土)	5名	平成25年1月21日(月) ~ 2月1日(金)
第2次社会人特別入学選考			平成25年1月21日(月) ~ 2月1日(金)

募集人員数：推薦・第1次試験・第1次社会人特別入学選考含む

中村学園大学

種 別	試験日	学部・学科	募集人員	出願期間
試験入学 選考 (後期日程)	平成25年3月4日(月)	栄養科学部 栄養科学科	5名	平成25年 2月15日(金)
		教育学部 児童幼児教育学科	5名	~ 2月26日(火)
		流通科学部 流通科学科	5名	
大学入試 センター 試験利用 入学試験 (後期日程)	①平成25年度大学入 試センター試験の 成績を基に合否判 定を行う。 ②本学の個別学力試 験は課さない。	栄養科学部 栄養科学科	3名	平成25年 2月15日(金)
		教育学部 児童幼児教育学科	5名	~
		流通科学部 流通科学科	3名	3月5日(火)

中村調理製菓専門学校

区分	試験日	出願期間
第6回 入学試験	平成25年3月3日(日)	平成25年2月12日(火) ~ 2月28日(木)
第7回 入学試験	平成25年3月24日(日)	平成25年3月4日(月) ~ 3月21日(木)

1日体験入学：平成25年1月20日(日)、2月17日(日)、3月31日(日)、11:00~15:00

中村国際ホテル専門学校

区分	試験日	出願期間
第6回 入学試験	平成25年3月3日(日)	平成25年2月12日(火) ~ 2月28日(木)
第7回 入学試験	平成25年3月24日(日)	平成25年3月4日(月) ~ 3月21日(木)

1日体験入学：平成25年1月20日(日)、2月17日(日)、3月31日(日)、11:00~15:00

発達支援センター「親子教室」

この取り組みは、子どもの保育・教育原理の研究や実践に役立てる活動の一環として発達支援センターが企画しているもので、乳児期から幼児期までの発達に関する講義や子ども同士で遊ぶ体験、保護者の育児に関するフリートーキングなどを行う場として地域の親子（1〜2歳児）を対象に毎年、開催されています。今年度は次の4日間の日程で行われました。

第1日目 平成24年9月27日

（発達支援センター 多目的ホール）

センター長の挨拶、佐々木美智子教授（教育学部）によるオリエンテーションの後、親子でできる遊びや簡単なゲームが行われました。また、「親自身の気持ちの出し方」や「抱っこをめぐるロールプレイング」に関するミニレクチャー、保護者が共感し合うためのフリートークの時間が設けられました。

第2日目 平成24年10月11日

（発達支援センター 多目的ホール）

「食生活の基礎づくり」をテーマに、寺澤洋子教授（短期大学部食物栄養学）によるミニレクチャーが行われました。離乳の必要性や離乳食アレルギーな



どの留意点をはじめ、間食（おやつ）や子どもの食事に関わる問題などについてレジュメを使った分かりやすい説明が行われ、質疑応答のほか、朝食の欠食データをしながらの意見交換が行われました。

第3日目 平成24年10月20日

（第2体育館 柔道場）

この日は、土曜日を利用して父親参加のもと行われました。最初に親子でできるリトミックが行われ、音楽が流れると体を動かし楽しむ姿があちらこちらで見られました。「父親の育児参加とは」をテーマに圓入智仁准教授（短期大学部幼児保育学科）によるミニレクチャーが行われ、父親の役割を知ること、夫婦や参加者同士のコミュニケーションを深める時間となりました。

第4日目 平成24年10月25日

（第2体育館 柔道場）

「親子で運動遊び」をテーマに田中浩子教授（教育学部）によるミニレクチャーが行われ、0、1歳児と大きくなるにつれて、どのような動きを獲得し、およそ2歳の子どものはどのような動作の発達が見られるかというお話がありました。一日、一日の変化は少ないものの一年間では大きな運動発達がみられることが説明され、具体的に生活の中でできる親子が触れ合う運動遊びを親子で楽しんでいただきました。

発達支援センターでは、親子教室のほかに「子どもの育ちをみつめる保育・教育専門講座」を毎年行っており、平成24年度は「幼児期から学校教育・就労への『つなぎ』の支援」をテーマに、平成25年2月16日、2月23日、3月2日の3日間に亘って開催する予定です。

「Library Lovers キャンペーン2012」

「ステキな本に出会おう」



秋の全国読書週間に合わせ、10月22日から11月19日にかけて、本学図書館において「Library Lovers キャンペーン2012」が実施されました。このキャンペーンは、学生に大学図

書館の存在意義を再確認してもらい、利用促進を図ることを目的として九州地区大学図書館協議会（九州・沖縄国公私立大学80館加盟）が実施するものです。協議会企画に合わせ、本学オリジナル企画として、流通科学部3年生3名の企画メンバーによる選書ツアーと特別コー

ナーの設置を行いました。企画メンバーの3名はまず、事前に学生約400名にアンケートを実施し、どのような図書コーナーに魅力を感じるかを調べ、これまでに読んで感動した本、他の学生におすす

めたい本についても聞き取り調査を行いました。さ



らに、先生方へも学生時代に読んで良かった本や、ぜひ今の学生に読んでほしい本を調査し、市内の書店へ選書ツアーに出かけて、アンケート結果などをともに、図書館に置

いて欲しい本や読んでみたいと思う本を直接手にとつて選びました。

図書館2階のカウンター横に「ステキな本に出会おう」というタイトルのもと、「学生アンケートによるオススメ本」、「就活生必見!」、「先生の人生を変えた一冊」、「書店で一目惚れした本」の4つの特別コーナーを作り、POP広告での紹介などを行いました。

約1カ月という短い期間でしたが、特別コーナーに並べた計132タイトルの本のうち、キャンペーン期間中に99タイトルが貸し出され、特に「就活生必見!」コーナーが好評で、期間中6回も貸し出された本もありました。キャンペーンのスタートと同時に多くの方々に本が借りられ、一時は貸出可能な本がなくなってしまうこともあるほどの反響でした。企画メンバーにとつても、アンケート調査やPOP作成などを通して、大学で学んだことを実践できる良い機会となりました。



付属幼稚園 園長だより



ある日のこと

苓岐幼稚園園長 久富さよ子

ある日のこと、年少のAちゃんが泣いていました。わけを聞くと、同じクラスのBちゃんに、おもちゃをとられたのだそうです。Bちゃんに事情を聞くと、そのおもちゃは「ここにあった」と答えました。もう一度Aちゃんに尋ねました。「AちゃんがおもちゃをもっていたのにBちゃんがとりあげたの？」と聞くと、Aちゃんは「そうではない」と言います。

子どもたちの話しをよくよく確かめると、Aちゃんはおもちゃを置いて別の所に遊びに行ったため、そこにやって来たBちゃんがおもちゃで遊ぶことになったようです。やがてAちゃんは三者のやりとりのなかから、泣くようなことではないと悟ったのか、他の所へ遊びに行ってしまうました。

しばらくするとBちゃんが「先生、Aちゃんはどこに居るの？」と尋ねてきました。「お部屋で遊んでいますよ」というと、BちゃんはAちゃんの所へ行き、先ほどのおもちゃを黙って渡しました。その有様を見ていた私は、幸せな気持ちで一杯になりました。そしてBちゃんの心の中に起きたであろう様々な思いを、想像していました。

当園では日頃からトラブルが起きる度に、先生方は子どもたちに丁寧に向きあい、彼ら自身が振り返って考える「チャンス到来」と、とらえています。すぐに解決のつかないことも多いのですが、一見些細にみえる事柄にきちんと向き合うことで、子どもの成長の瞬間に立ち会わせてもらったり、逆に大人が抱える問題と何ら変わらないことを、知らされたりするのです。保育はこのように日々の積み重ねの連続のうちに、子どもと触れ合う私たち自身に、多くの示唆を与えてくれているようにも思うのです。



酒見 康廣 教授 徳井 教孝 特任教授 三成 由美 教授 南 久則 氏 中路 重之 氏 内山 文昭 所長

第11回 薬膳市民公開講座

平成24年11月24日、西1号館10階大講義室において、中村学園大学薬膳科学研究所、日本食物繊維学会、上海中医薬大学の共催による第11回薬膳市民公開講座「薬膳を食べて学んでヘルシーライフ 食物繊維、腸内細菌叢と便秘改善」が開催されました。

学内外の講演者4名による、お腹の健康に関する栄養や便秘改善に関する講演のほか、会場では薬膳菓子の試食会も開催されました。

一般の参加者も多く、薬膳についての認識を深め合う場となりました。

プログラム

「薬膳を食べて学んでヘルシーライフ
食物繊維、腸内細菌叢と便秘改善」

開会挨拶

中村学園大学薬膳科学研究所

所長 内山 文昭

講演

食物繊維と便秘改善

弘前大学大学院医学研究科社会医学講座

教授 中路 重之

腸内細菌叢と便秘改善

熊本県立大学環境共生学部食健康科学科

教授 南 久則

薬膳食材と便秘改善

中村学園大学栄養科学部 教授 三成 由美

中医学体質と便秘改善

産業医科大学健康・予防食科学研究室

特任教授 徳井 教孝

閉会挨拶

中村学園大学短期大学部 教授 酒見 康廣

敬称略、肩書き等は開催日現在のもの



筑前町のマスコットキャラクター「ちくちゃん」の看板を製作



平成24年度 筑前町ど〜んとかがし祭

「筑前町ど〜んとかがし祭」は、筑前町の自然の恵みに感謝し、収穫をみんな喜び合う祭りです。また、地域住民の連帯と融和を図り、思いがけない発見や感動に出会える祭りでもあります。本学と筑前町の連携協力協定締結をきっかけに昨年に引き続き、今年も祭りの企画委員会には中村学園大学の代表として、流通科学部4年生の身深友祐さんが参加しました。

第8回となる今年度のテーマは、昨年に引き続き「食と農」。キャッチフレーズは「食の祭りだ全員集合！いいものは近くに！」に決まり、食のPRを中心とした祭りが開催されました。

11月3日の前夜祭では、流通科学部甲斐諭教授ゼミ

4年生13名と後藤恵美講師ゼミ3年生8名の合計21名の学生が参加し、特産品PR班、特産品試食班、ちくちゃんゾーンの3班に分かれて作業を行いました。

特産品PR班では、筑前町の特産品「筑前クロダマル」を紹介。筑前町のマスコットキャラクター「ちくちゃん」の着ぐるみを着用してのステージパフォーマンスのほか、会場を歩いて子どもたちと触れ合ったり、「ちくちゃん」を大いにPRできました。祭りに参加した学生たちにとって、企画委員や筑前町役場の方々、友人の支えを通じて、人とのつながりを実感する貴重な体験となりました。

翌日の本祭では、流通科学部甲斐諭教授ゼミ4年生13名と後藤恵美講師ゼミ3年生8名の合計21名の学生が参加し、特産品PR班、特産品試食班、ちくちゃんゾーンの3班に分かれて作業を行いました。

斐諭教授ゼミ4年生8名が参加。非常に冷たい風が吹く中、約3、500名の方が来場されました。学生は、祭りの案内をする受付接待や来場者人数のカウントなどを行い、フィナーレは花火で飾られました。



第8回 地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウム



佐藤 博信氏 大和 孝子 准教授 古賀 千尋 氏 内田 直樹 氏 藤田 守 栄養科学部長 甲斐 諭 学長

平成24年11月3日、西1号館10階大講義室において、第8回地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、地下鉄七隈線沿線に所在する中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学の3大学連携のもと、市民の健康づくりを目的に実施しているもので、今年度で8回目を迎えました。今年は「免疫力を高めるための食と健康」ストレスに打ち勝つために「」をテーマに地域住民や各大学の関係者を中心に、約220名が参加しました。



第1部では各大学の講師から、それぞれの専門分野におけるストレスと健康について、わかりやすい講演が行われました。福岡大学病院内田講師は、ストレスと精神疾患の関係をダムに例えて説明され、うつ病の基本症状、うつ病の種類、うつ病からくる不眠症の対策などについて紹介されました。福岡歯科大学古賀教授は、口腔乾燥症や顎関節症などの口腔の異常とストレスの関係を説明されました。本学の 大和准教授は、ストレスの3つの栄養ケア(①ストレスに関係のある栄養素を知る ②ストレスにより消耗した栄養素補給 ③食事を通してストレスに強くなることを知る)についてお話しされました。第2部の公開討論では、参加者が日頃抱えている悩みや講師の見解を求める質問が多数寄せられ、市民の健康に対する意識の高さがうかがえました。

プログラム

開会の辞・総合司会	中村学園大学 栄養科学部長 藤田 守
当番校挨拶	中村学園大学 学長 甲斐 諭
《第1部》	
講演	
「ストレスとうつ病」	福岡大学病院 精神神経科 講師 内田 直樹
「ストレスとお口の健康」	福岡歯科大学 口腔医療センター 教授 古賀 千尋
「ストレスとうまく付き合うために 食の視点から」	中村学園大学 栄養科学部 准教授 大和 孝子
《第2部》	
公開討論(進行)	中村学園大学 栄養科学部長 藤田 守
閉会の辞	福岡歯科大学 口腔・歯学部門長 佐藤 博信

敬称略 肩書き等は開催日現在のもの

後学期公開授業(授業参観)

平成24年11月5日から11月22日にかけて、公開授業(授業参観)が実施されました。この取り組みは、教員が担当する科目を公開し、教職員が参観するもので、平成21年度から実施しており、今年度で4年目になります。参観した教職員は、参観するだけでなく、自身の授業に取り入れた点や感想、アドバイスなどをレポートにまとめて提出することになっており、参観を受けた教員は、参観者からのレポートを受けて、考察を提出するとともに授業の改善を図ることになっていきます。

科目の参観が行われました。この公開授業(授業参観)は本学で取り組んでいる全学FD活動の一つであり、全教職員が協力して教育の改善を目指しています。

同時に、高大連携の一環として、併設校(中村学園女子中学校・高等学校、中村学園三陽中学校・高等学校)と大学との間での公開授業(授業参観)も併せて実施され、大学の教職員が高校の授業を、また、高校の教職員が大学の授業を参観するという取り組みも行われました。本学では、FD委員会、FD推進センター、FD推進委員会と各教育センターが連携し、全学的なFD(授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な活動)に取り組んでいます。

入学前教育 流通科学部・短期大学部

平成24年12月15日、推薦入試・社会人特別入試合格者を対象に流通科学部と短期大学部で入学前教育が実施されました。この取り組みは、入学試験合格から入学までの期間、オリエンテーションや事前課題、在学生との交流会を行い、勉学に対するモチベーションの維持と、大学生活への円滑な接続を目指し行われるものです。



実施内容

- 流通科学部**
- ・入学前の心構え
 - ・入学前教育についてのガイダンス
 - ・基礎学力習得課題の指示及び問題集配布
 - ・講義(SPI[非言語分野]の解き方)
- 短期大学部**
- 食物栄養学科**
- ・栄養士の仕事と心構え、大学と高校の違い
 - ・シラバスの見方、履修指導
 - ・事前学習教材の配布と内容説明
 - ・在学生との交流会
- キャリア開発学科**
- ・大学生活の楽しい過ごし方
 - ・キャリアデザインシートと事前学習課題配布
 - ・実習「インタビュアー」
 - ・在学生との懇談会
- 幼児保育学科**
- ・オリエンテーション
 - ・講義(器楽、声楽)
 - ・在学生との交流会

J A福岡市50周年大感謝祭

平成24年11月18日、J A福岡市50周年大感謝祭「食と農のおまつり博多じょうもんさん収穫祭!!」がマリノメッセ福岡で行われ、本学は、J A福岡市及びJ A福岡中央会との連携協定による取り組みの一つとしてこのイベントの二つの企画に参加しました。



あまつ茶和っふる



〈第5講大学生アグリスクール〉
アグリスクールは、本学学生が農業体験や加工体験等の一連の生産工程を通して食や農業、J Aへの理解を深めることにも、将来、学校給食や病院の給食現場等の管理栄養士、また教師等となる学生に地産地消の大切さを理解してもらうことを目的としており、平成24年5月に開講し、今回が最終講となりました。この日は、第4講で収穫したじゃがいもの販売と学生考案の「じゃがもち」の試食・販売を行いました。じゃがいもの販売は袋に詰め放題というスタイルで行われ、多くの来場者で賑わい、開始から30分程で完売。また、ピザソースとチーズが決

め手のじゃがもちの販売も好評で完売となりました。今回の売上は九州北部豪雨で被害にあつた方々への義援金として寄付しています。学生にとつて自ら植え付けから収穫までを行ったじゃがいもを、実際に一般の方々に提供できる食の原点について学ぶ貴重な経験となりました。



じゃがもち

〈大学生対抗「直売所グルメ」選手権〉

J A農産物直売所と大学生がタッグを組んで地元の農産物を使った商品開発を行い、優勝を競い合うことで福岡と食と農についての知識を深めることを目的としたイベントで、本学をはじめとする5つの大学が参加しました。本学チームは、J A福岡市「博多じょうもんさん福岡市場」と協力し、あまおうのパウダーを練り込んだ生地と地元の茶葉をすったものを練り込んだ2種類の生地で、粒あんと米粉で作ったカスタードをサンドした商品「あまつ茶和っふる」を開発しました。この商品は、6月頃から試行錯誤を繰り返して完成しました。老若男女みんなに愛されるスイーツを作るため、食材にもこだわりました。グルメ選手権の審査は一般の方200名と審査員3名に実施してもらい、アイデア、ユニークさ、目新しさなどからお気に入りの作品に投票してもらいました。審査の結果では、惜しくも4位になりましたが、地元の食材がいっぱい詰まった一口食べると思わず笑顔がこぼれる一品でした。

大学院流通科学研究科セミナー



嶋口 充輝 氏

平成24年12月14日、西1号館において、大学院流通科学研究科セミナーが開催されました。流通科学研究科は、研究指導を中心としながらも、大学院修士課程に対する社会的要請並びに専門家庭教育に対する流通分野の産業界からの要望に応えて、次代を担う流通科学のプロフェッショナルを育成することを目標としています。本研究科セミナーは、大学院生の教育の一環としてビジネスの実践に触れる機会を提供するために、企業、地域の皆さまにもご案内し、地域貢献事業の一環として開催しています。



今回は、講師に日本マーケティング協会理事長の嶋口充輝氏（慶應義塾大学名誉教授）をお招きし、「日本のマーケティングのこれまでとこれから」をテーマに講演が行われました。マーケティングの本質と革新について、実践経営の視点からまとめられたお話は、参加者にとつて分かりやすく、非常に貴重な講演となりました。



またセミナー終了後の懇親会へも多数の方にご参加いただき、産学官の連携、現代の流通の動きについて、より認識を深め合う場となりました。

国際交流スポーツ大会

平成24年12月16日、平成24年度留学生交流行事の一環として「国際交流スポーツ大会」が本学・体育館で開催されました。スポーツ大会には、外国人留学生23名、チューター（留学生1年生の学生生活や授業支援をするボランティア日本人学生）をはじめとする日本人学生19名、学生寮の寮生24名、教職員9名の合計75名が参加しました。

甲斐学長による開会の挨拶が行われ、

バスケットボール、バドミントン、卓球の3種目に分かれて熱戦を繰り広げました。バスケットボールでは、留学生チームをはじめ5



チームが出場。全員男子の留学生チームと女子だけの日本人学生チームの試合は、当初の予想に反し、お互い一步も引かない好試合で、引き分けとなりました。試合終了後は、チーム全員が互いに笑顔で握手をするなど、スポーツを通じて交流を深める良い機会となりました。

大会後に開かれた懇親会（昼食会）では、各種目別の優勝チームや個人賞の発表など表彰式も行われ、団体総合優勝となった留学生チームには、甲斐学長からトロフィーが手渡されました。

本学では、今回のスポーツ大会以外にも年間を通して、新入生歓迎会、バスハイイク、学園祭出店など、留学生と日本人学生との交流親睦を図る行事を行っています。

流通科学部「商品開発プロジェクト」
 送って楽しい！もらってビックリ！食べて美味しい！
 ぐるまめーるで町の特産品をPR

流通科学部の後藤ゼミでは、企業における商品開発の重要性や新商品の企画プロセスについて学んでいます。実際に調査をして企画書を作成し、学内外でプレゼンテーションする活動を通じて企画力やプレゼンテーション力の向上に努めています。

このたび、3年生の眞有美沙子さんが企画した福岡県筑前町の特産品である黒豆「筑前クロダマル」を使用した「ぐるまめーる」の商品アイデアが採用され、ファーマーズマーケットみなみの里にて商品化されました。

中村学園大学と筑前町は、食に関する包括連携協定を結んでいます。この連携協定が縁で、眞有さんは筑前町の特産品である黒豆「筑前クロダマル」の存在と、若い人にももっと黒豆を食べてもらいた



「企画の商品化は、筑前町やゼミの仲間の支えがあったからこそ。両親も喜んでくれています。早速、年末の挨拶としておばあちゃんに送りたい」と眞有さん。



12月17日、丸善キャンパスショップに駆けつけたゼミ生の仲間

の新作販売解禁に合わせ、ファーマーズマーケットみなみの里及び学内の丸善キャンパスショップで数量限定で販売されました。発売初日は企画検討に関わったゼミ生らが駆けつけ、ゼミ生お手製のPOP広告を前に笑顔



郵便で送ることができる黒豆ギフト「ぐるまめーる」は、1セット300円

いとクロダマルを使ったださまざまな商品の開発に取り組み筑前町の活動を知りました。なかでも、軽く炒ったクロダマルを炊飯器に入れて米と一緒に炊くだけで、美味しい「クロダマルごはん」ができるレシピが気に入って、黒豆の手軽で美味しい食べ方として多くの人に知ってもらいたいと考えました。そこで、

「中村学」 神田紅氏・山本華世氏

本科目は、大学1〜4年次を対象に今年度から開講された大学教養教育科目で、本学の歴史や建学の精神を理解することで、本学学生であることの誇りとアイデンティティの醸成を図ることを目的としています。この講義では、毎回、本学に深く関わっている方をゲストスピーカーにお招きします。



講義による中村ハル物語

第9回目となる平成24年11月27日の授業は、講師の神田紅氏に担当していただきました。神田氏は、福岡県出身で、「明るく楽しく解かりやすい」という芸風をモットーに、劇場だけでなく、テレビやラジオでも活躍され、文学作品だけでなく、企業や創業者のオリジナルの講義も披露されています。

まず、「鉢の木よりいざ鎌倉」という講義から始まり、学生や教職員も神田氏を手本に音読をするなど、講義を体験。続いて、学園祖である中村ハル先生の誕生から永眠までの講義が披露されました。登場人物になりきった口調に、ハル先生の想いや決心が、ひしひしと伝わり、中村学園を創立するまでの苦労や、病気の弟とハル先生との逸話は、特にハル先生



神田 紅氏

の人となりを感じられるものでした。神田氏は最後に、「何事にも一生懸命に取り組み、人生

に大きな花を咲かせてください」というハル先生の言葉を贈られました。



山本 華世氏

第12回目の平成24年12月18日は、地元メディアで活躍中の山本華世氏による授業が行われました。

山本氏は、中村学園短期大学家政科（現・短期大学部キャリア開発学科）のご卒業で、中村学園女子高等学校在学中はバスケットボールの国体選手にも選ばれた実績の持ち主です。現在は、「華世・システム」代表としてテレビキャスターをメインに、幅広い分野で活躍されています。山本氏は、社会では座学だけでは習得できないマナーや常識、先輩の有難さが実感できること、そしてそれは本学の建学の精神が沁みついているからこそだと説明されました。また、自己成長のためには、多くのことを経験している先輩方から助言をもらうことは欠かせないことであり、自分を分析し、生き方を見つめて欲しいと学生たちへアドバイスされました。また、言葉のセンスを自分で磨くことが大切であり、頼みごとをする時にも言い方ひとつで相手に与える印象が変わること、相手のために少しでも時間を割いたりといったさり気ない気遣いができるようになることについてもお話されました。説得力あるお話は、学生たちにとって自己を見つめ直す良い機会となりました。

クリスマスコンサート 九州交響楽団 with 吹奏楽部 & クリスタルハーモニー部

平成24年12月21日、本学主催によるクリスマスコンサートが中村学園女子中学校・高等学校講堂において開催されました。

演奏は九州交響楽団で、本学の吹奏楽部及びクリスタルハーモニー部との協演も行われました。このイベントは、プロのオーケストラ演奏に接することで学生の情操を高め、音楽への造詣を深めることを目的としており、

当日は、本学の学生・教職員とご家族をはじめ600名を超える方々にお越しいただきました。

曲目は、モーツアルトの代表作である交響曲第29番をはじめ、宮崎駿監督のアニメ作品「魔女の宅急便」「千と千尋の神隠し」の挿入曲、クリスマスメドレー、バレエ組曲「くるみ割り人形」など親しみある名曲が並び、



本学の女声合唱団クリスタルハーモニー部、及び吹奏楽部が登場し協演する場面もありました。プロの生演奏が流れると、聴衆は深く豊かな音色に顔をほころばせ、多彩なジャンルの名曲に魅了されていました。最後に、観客全員で「ふるさと」を大合唱。舞台と観客席が一体となった、素晴らしいクリスマスコンサートとなりました。



防災教育（救命講習）

平成24年12月25日、教職員を対象に防災教育（救命講習）が行われました。この講習会は、心肺停止状態にある傷病者に遭遇した際の、応急手当に関する正しい知識とスキルの習得を目的として実施されました。

講習会の冒頭で、本学自衛消防隊長である甲斐学長から、「いつ誰が不測の事態に遭遇するかわからない。いざという時、冷静に適切な対応ができるよう研修会を役立てて欲しい」と挨拶がありました。城南消防署員及び応急手当市民サポーターの方々も講師となり、DVDも用いながら、グループに分かれての胸骨圧迫とAED操作の実技講習が行われました。

救命の手順は、まず、「大丈夫ですか？」などと声をかけながら傷病者の反応を確認します。反応がなければ助けを呼び、119番通報とAEDを手配。次に呼吸があるか観察し、動きがなければ胸骨圧迫（心臓マッサージ）を行います。胸骨圧迫は、胸の真中を強く、早く、絶え間なく、をポイントに傷病者に対して垂直な姿勢で行います。継続力を要するため、複数人で連携をとると救命率が上がります。



AEDが到着したら、音声メッセージの指示通りに操作します。心電図の解析や電気ショック作動後は、すぐに胸骨圧迫を再開し救急隊の到着まで処置を繰り返します。AEDはいくつかの種類がありますが、どの機種でも音声メッセージや点滅ランプにより同じ手順が示されるので、落ちて指示に従うと良いそうです。傷病者に遭遇するとパニックに陥りやすく、冷静に対処することが肝要です。参加者からは、「胸骨圧迫は、思った以上に力が必要で難しい。体力を使い果た」と感想がこぼれ、救命リレーの大切さを実感しました。



メンタルヘルス研修会

平成24年12月25日、本学西2号館において教職員を対象とした「メンタルヘルス研修会」が開催されました。近年、仕事に関して強い不安やストレスを感じている就労者は増加傾向にあります。

本研修会は、疾患の要因となり得るストレスについて正しい知識や対処法を身に付け、心の健康づくりを推進することを目的として左記の内容で開催されました。おかしいと思ったら、抱え込んだり自己判断せず、身近な人に相談したり、各種のメンタルヘルス相談窓口を利用することや、日本うつ病学会からうつ病治療のガイドラインが公表されていることについても案内がありました。また、全教職員を対象に事前に行われた「労働者の疲労蓄積度自己診断チェック」についての結果報告が行われ、各々の疲労蓄積を見直すきっかけとなりました。



実施内容

- こころの健康について
産業医 教授 荻本 逸郎
- 疲労蓄積度自己診断チェック
集計結果について
看護師 学生課員 井上 紀子
- 身体の健康について
産業医 教授 森山 耕成



中村学園女子中学校 創立20周年

平成4年4月に開校した中村学園女子中学校が創立20周年を迎え、女子中学校・高等学校の講堂において、記念式典並びに記念講演会が行われました。同校の卒業生はこの20年間で1,282名になりました。経済不況の長期化などで私立中学校はどこも厳しい環境にあります。平成22年に新校舎が完成し教育環境が抜群に良くなったことや、教育改革に取り組む学校の姿勢が次第に浸透してきたこともあり、平成23年度から志願者・入学者とも増加。大変、活気に満ちています。

記念式典

平成24年11月1日に行われた記念式典には、学園関係者、教職員、生徒、後援会役員ら約350名が出席しました。

式典は2部構成で行われ、第一部では角薫校長が「校訓の清節・感恩・労作は不変ですが、進取の気風を持って常に良い教育を求めていきたい」と式辞を述べ、また、中村量一理事長は「創立の原点に立ち返り、教職員一丸となって期待に応えられる教育に取り組んでいきたい」と挨拶されました。第二部では、生徒による合唱、箏曲部・吹奏楽部・バトン部による調和のとれた演奏や演技が披露され式典を締めくくりました。

記念講演会



平成24年11月10日に行われた記念講演会には、日本の宇宙開発を担う独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）で活躍するフライトディレクター、前田真紀氏を講師にお招きしました。

テーマは「宇宙と私たち、そして未来」。前田氏は、宇宙は私たちが感じるよりももっと身近にあること、地球と国際宇宙ステーションをつなぐ「こうのとりの」は日本の誇るべき技術が用いられたロケットで、宇宙空間で行われる共同研究等に大きな役割を果たしていることなどを紹介され、また、今後の宇宙開発はどのように展開していくか、宇宙空間で行われた研究や技術開発が私たちの生活にどのような生かされていくかなど、さまざまなお話をしてくださいました。



食育館「レシピ本」刊行

本学の学生食堂「食育館」は、本学で学ぶ全ての学生が「健全で豊かな食生活を送るために必要な「食事の自己管理能力」を養う食育の場」として、平成20年4月にオープンしました。以来、学生の利用はもとより、教職員、地域の方々の利用で、その食数はすでに100万食を超えました。

このたび、「食育館」で提供している四季折々の「一汁三菜」ランチの一部をレシピ本として発刊いたしました。この本では、おいしくて栄養バランス

に優れた「一汁三菜」ランチのレシピとともに、関係スタッフ（教員、管理栄養士、調理担当者等）によるワンポイントアドバイスや調理のコツ、お弁当への応用方法なども紹介しています。この機会にぜひご購入いただき、健康な毎日を過ごすための食事づくりにご活用ください。

【お問い合わせ先】
生活支援オフィス（学生課）

TEL 092・851・2593

しっかり食べよう「一汁三菜」

中村学園の学生食堂（食育館）レシピ

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 編
B5判 96頁 オールカラー 並製 本体価格 1,200円
ISBN: 978-4-86345-133-9 C0077 2012年10月刊行

4年間で100万食の実績を持つ、中村学園の「食育館」のレシピを大公開!

「食育」で著名な中村学園は、国内でもトップクラスの管理栄養士・栄養士養成施設です。「何を・どのように・どのくらい食べるか」が重要であると考えており、食育推進に力を入れています。

本書は、4年間で100万食の実績を持つ中村学園の学生食堂「食育館」が提供する「一汁三菜」を中心とした理想的な栄養摂取のためのメニューをご紹介しているレシピ集です。

中村学園ならではの「一汁三菜」に基づいたバランスの良い理想的な食事が盛りたくさん。

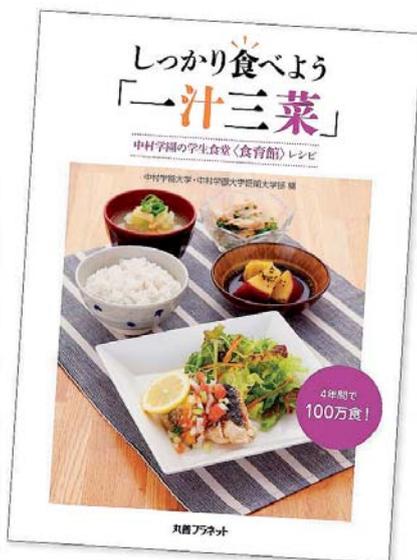
美味しさはもちろんのこと、栄養バランスの良さも抜群で「簡単なエネルギー摂取量(カロリー)の調整方法」「お弁当への応用方法」などのレシピをオールカラーでご紹介。

「年齢別の食生活アドバイス」や「ちょっとした調理のコツ」など、普段の料理に役立つコラムも充実。

中村学園の「食」に対する取り組みもご紹介。

「一汁三菜」とは

昔ながらの日本の食事の方式。本膳料理の中でも一番質素な形。汁物1品(一汁)と主菜1品+副菜2品(三菜)で構成されている。栄養バランスの取れた献立はどれも理想的な食事とされる。

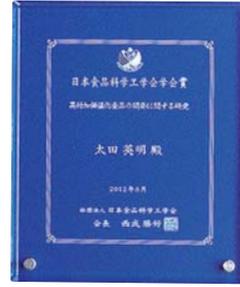


教員の表彰

「日本食品科学工学会学会賞」を受賞



太田 英明 教授



平成24年8月、太田英明教授(栄養科学部)が社団法人日本食品科学工学会第59回大会において、長年携わってきた「高付価値化食品に関する研究」に対して日

本食品科学工学会学会賞を受賞しました。受賞対象である食品素材の流通・加工技術の開発、RO・UF膜技術や搾汁装置の開発ならびに生理機能性食品成分の解明とその化学分類への応用に関する研究報告(論文90編、総説等70編など)が評価を受けたものです。

社団法人全国栄養士養成施設協会会長表彰

平成24年11月、太田英明教授(栄養科学部)が、社団法人全国栄養士養成施設協会会長から表彰を受けました。この表彰は、多年にわたり、栄養士・管理栄養士養成施設において教育に尽力され、多大な貢献をされた教員に対し贈られるものです。

外部資金受入れ状況

受託研究

- 【研究者】 太田 英明 教授(栄養科学部)
- 【研究課題名】 沖縄ブランド農産物ブランド力強化のための特性評価(次世代沖縄ブランド作物特産化推進事業)
- 【企業名等】 沖縄県農業研究センター
- 【金額】 3,000,000円

研究助成

- 【研究者】 治京 玉記 薬膳科学研究所 講師
- 【研究課題名】 タンパク質分離用HPLCシステムの開発
- 【企業名等】 富士シリシア化学株式会社
- 【金額】 500,000円
- 【研究者】 熊原 秀晃 講師(栄養科学部)
- 【研究課題名】 携帯性に富む超小型アクティビティモニタの身体活動評価アルゴリズムの検討
- 【企業名等】 公益財団法人鈴木謙三記念医学科学応用研究財団
- 【金額】 1,000,000円
- 【研究者】 岩本 昌子 准教授(栄養科学部)
- 【研究課題名】 ビタミンD介入試験による研究活動支援
- 【企業名等】 鷹乃産業有限会社
- 【金額】 500,000円
- 【研究者】 甲斐 諭 教授(流通科学研究所・所長)
- 【研究課題名】 流通科学研究所研究活動支援
- 【企業名等】 九州機販株式会社
- 【金額】 300,000円



教員の出版物

著者は、本学教員のみ記載、()内は出版社、発行年月



「ARTing」特別増刊号

井上 寛七 教育学部・教授 共著
(武田義明・ギャラリー風 平成24年12月)



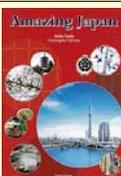
「マーケティングの理論と実践」

岩永 忠康 流通科学部・特任教授 編著
(五紘舎 平成24年10月)



エキスパート管理栄養士養成シリーズ 「食品衛生学【第3版】」

小田 隆弘 食物栄養学科・教授 共著
(化学同人 平成24年10月)



「ジャパントイムズで日本を読む」

津田 晶子 食物栄養学科・講師 共著
(朝日出版社 平成24年11月)

子どもクッキング 〜食物研究部〜

平成24年10月13日、城南区別府公民館にて子どもクッキングを開催しました。食物研究部では、食に関するボランティア活動や、畑での野菜の栽培などを行っており、この子どもクッキングは



普段料理をしない子どもたちにも料理の楽しさを感じてもらい、家でも料理を積極的にしてもらうことを目的に別府公民館と本学食物研究部の学生が企画したものです。当日は、27名の別府校区の子どもたちと12名の食物研究部員が参加。メニュー

は「家で作れる餃子とさつま芋ご飯のおにぎり」でした。餃子作りでは、子どもたちはゆっくり丁寧に皮を包む作業に集中し、きれいに包めると喜んでいました。また、ハートの形や猫の形のおにぎりを作っていました。料理を通して、子どもたちの仲も深まり、みんなで調理を楽しみました。



学園歌銘板設置

平成24年10月15日、平成23年度卒業生の卒業記念品として寄贈された学園歌の銘板が、体育館に設置されました。歴史を想わせる美しい年輪と趣があるけやきの板に、中村栄養短期大学開学年度の1957(昭和32)年に制定された「中村学園の歌」の歌詞が刻まれています。



ナカムラ・春のオープンキャンパス 2013
NAKAMURA

予約
不要

入退場
自由

服装
自由

保護者の
方も歓迎

Open Campus Spring 2013

春・いちばん
ナカムラへ!!

2013.3/16 sat
open 10:00
close 15:30

Schedule

★ 模擬授業は3系統同じ時間帯に開催いたします。午前と午後で内容が異なります。
★ このプログラムは予定です。イベントの変更や追加などがありますので、詳しくはホームページなどで確認してください。

EVENTS	TIME	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
学部・学科相談コーナー	①10:00~12:00 ②13:00~15:00	←		←		←	
学生生活・就職・入試相談	10:00~15:30	←					
保護者対象入試説明会	11:40~12:30		←				
生徒対象入試説明会	11:40~12:30		←				
模擬授業 (栄養系・教育系・企業系)	①10:30~11:20 ②13:30~14:20		←			←	
在学生との交流・キャンパスツアー	①10:30~11:30 ②12:00~13:00 ③14:00~15:00	←		←		←	
クラブ・サークル紹介	11:00~13:00		←				
寮の自由見学	11:00~15:00	←					

中村学園大学
中村学園大学短期大学部

【お問い合わせ先】 入試課 / 〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1
【TEL】 092-851-6762 (入試課直通)
【E-mail】 nyushi@nakamura-u.ac.jp 【URL】 http://www.nakamura-u.ac.jp/



地下鉄七隈線天神南駅から
9分という近さ。
都部に位置し、利便性も
バツグンです。

駐車スペースがありませんので、
公共交通機関のご利用をお願い
いたします。

園 児 募 集 中

定員になり次第締め切らせていただきます。
詳細は各園にお問い合わせください。



中村学園大学付属あさひ幼稚園
〒814 0105 福岡市城南区城西団地9番1号
【TEL】092 831 6291



中村学園大学付属壱岐幼稚園
〒819 0043 福岡市西区野方2丁目14番43号
【TEL】092 811 6831

広報誌セロリの定期購読について

定期購読をご希望の場合は、購読料(2年分)として郵便小為替1,200円分と、郵便番号・住所・氏名・電話番号を書いた紙片を同封のうえ、学事課宛にお送りください。なお、広報誌の発行は、年4回(4・7・10・1月)となります。保護者の方には毎号送付しています。

[申込み先] 〒814 0198 福岡市城南区別府5-7-1 中村学園大学 学事課「広報誌定期購読申込」係